

本学キャリア形成学科と右京区葛野学区が連携し 地域住民の約4割の防災意識を改善しました

京都光華女子大学（学長：高見茂）キャリア形成学部キャリア形成学科では、京都市右京区葛野学区自主防災会と連携し、防災に関する取組を進めています。この度、本学科4年生が同学区内における防災意識向上の調査研究を行い、約4割の家庭に防災意識の改善効果があったことを明らかにしました。

■ 学生が地域と連携した調査研究、防災意識改善の取組を実施

本学キャリア形成学部キャリア形成学科では、「創造力と実践力をイロドル多様な学びで社会に貢献できる力を養う」を教育方針とし、企業や地域と連携して、実践力と就業力を高めるプロジェクト型の学びやインターンシップなどに取り組んでいます。この度、本学科で行動デザインを学ぶ学生（指導担当教員：佐藤嘉洋 講師）が京都市右京区葛野学区自主防災会の連携のもと、学区内における防災意識の把握とその向上に向けた取組を行いました。

■ 約4割の家庭の防災意識の向上がみられた

事前のアンケート調査で、各家庭における備蓄状況に課題があることがわかり、その課題を改善する方策として、行動経済学の理論「ナッジ」を用いた3種の啓発チラシ（図1）を配布することで、地域住民の防災意識向上を図りました。チラシ配布後のアンケートでは、「備蓄量が変わった、内容を見直した」「今後備蓄を見直す予定である」と回答した方が全体の41.3%にのぼり、ナッジを用いたチラシが防災意識向上へ与える効果が非常に高いことが明らかになりました。

また、3種の啓発チラシはそれぞれ異なるナッジを用いたもので、「利得（自分にとって得であると認知させ行動を促す）」や「損失回避（自分が損をすると認知させ、それを回避する行動を促す）」のナッジが、より効果的であることも明らかにしました。

本取組は、2月下旬に実施される葛野学区自主防災会の会合にて報告予定です。

■ 右京区役所や右京消防署と協働で学生たちが避難所の模擬運営を実施

本取組に繋がるものとして、リベラルアーツ教育科目「データサイエンスPBL」（担当教員：佐藤嘉洋講師）の受講生32名が右京区役所や右京消防署、地域住民と協働し、1月25日（土）に少子高齢化が進む2040年の避難所運営をテーマにロールプレイを実施しました。

本学では今後も地域の防災意識向上への取組を継続的に行っていきます。

報道各社におかれましては、ぜひ、取材のご検討をよろしくお願い申し上げます。

＜取材に関するお問い合わせ＞

京都光華女子大学/短期大学部 入学・広報センター 担当：川島

[TEL] 075-312-1899 [FAX] 075-312-5594 [E-mail] hkk@mail.koka.ac.jp [URL] https://www.koka.ac.jp/

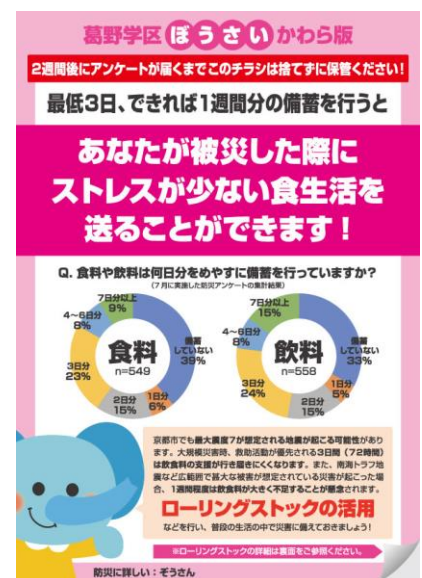


図1 ナッジを用いた啓発チラシ（利得）